

2023年12月11日  
トヨタモビリティパーツ株式会社  
株式会社ブロードリーフ

## ブロードリーフとトヨタモビリティパーツ、モビリティ産業における協業を合意 受発注業務の最適化サービスに関する協業を開始

株式会社ブロードリーフ（本社：東京都品川区、代表取締役社長：大山 堅司、以下 ブロードリーフ）と、トヨタモビリティパーツ株式会社（本社：愛知県名古屋市の、代表取締役社長：榊原 弘隆、以下 トヨタモビリティパーツ）は、自動車整備業などのモビリティ産業を中心とした受発注業務の最適化サービスを実現する事を目的に協業を開始する事で合意いたしました。



今回の協業は、ブロードリーフが開発・提供するデジタルビジネスプラットフォーム「Broadleaf Cloud Platform」とトヨタモビリティパーツが提供する「トヨタならではの高品質なサービス」との連携により、安心・安全なカーライフの更なる促進と、最適なサービスの提供を目的としています。

トヨタモビリティパーツといたしましては、業界全体の生産性の向上のため、この度の協業をはじめ新たなチャレンジを通じて、トヨタのおクルマを利用するすべてのお客さまとの接点づくり、および強化に取り組んでまいります。

またブロードリーフといたしましては、この度の協業により、「Broadleaf Cloud Platform」上の受発注プラットフォームを活用し、モビリティ産業の事業者へ業務効率化や監査、トレーサビリティの仕組みを提供することによって、これまで以上にカーオーナーのみならず安心・安全の提供を促進する環境整備を目指してまいります。

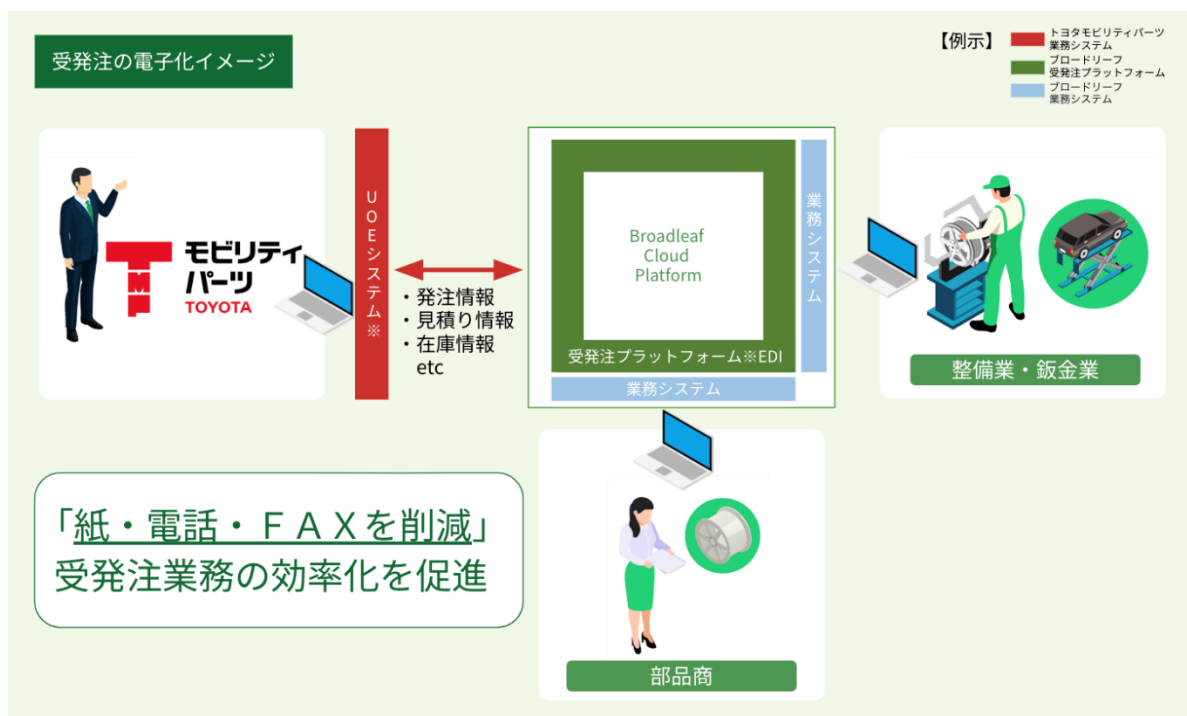
具体的には、トヨタモビリティパーツを通じて行われる自動車部品の受発注に関する業務において、現在主流となっている「紙・電話・FAXを中心としたアナログ業務」を、ブロードリーフが有するIT技術と、自動車整備業などのモビリティ産業の事業者のネットワークを活用することにより、効率化の実現と普及に取り組んでまいります。

モビリティ産業の事業者にとっては見積から部品発注、納品に至るまで、ワンストップで利用できる環境を提供いたします。またトヨタ車をはじめ、カーオーナーに対する利便性の高いサービスの提供することによって、豊かなクルマ社会への貢献を目指します。

現在、サービスの提供に向けて準備を進めています。

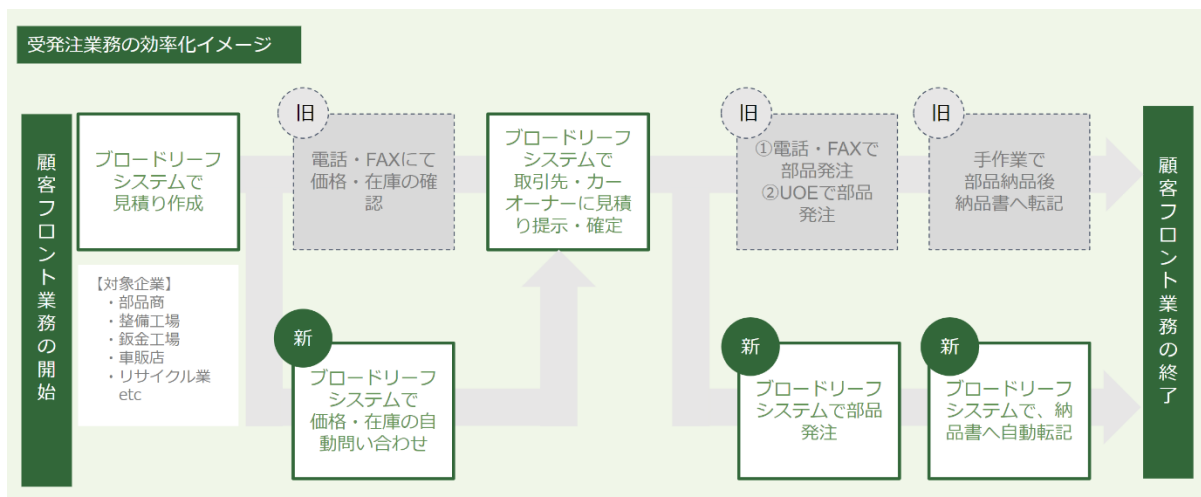
今後もブロードリーフとトヨタモビリティパーツは、それぞれの強みを活かした協業を通じて、モビリティ産業の事業者の生産性向上に貢献することに加え、カーオーナーにとって、利便性の高い生活サービスや移動の楽しさを体感いただく機会の提供を目指し、魅力的なサービスを検討してまいります。

<図①：サービス連携のイメージ>



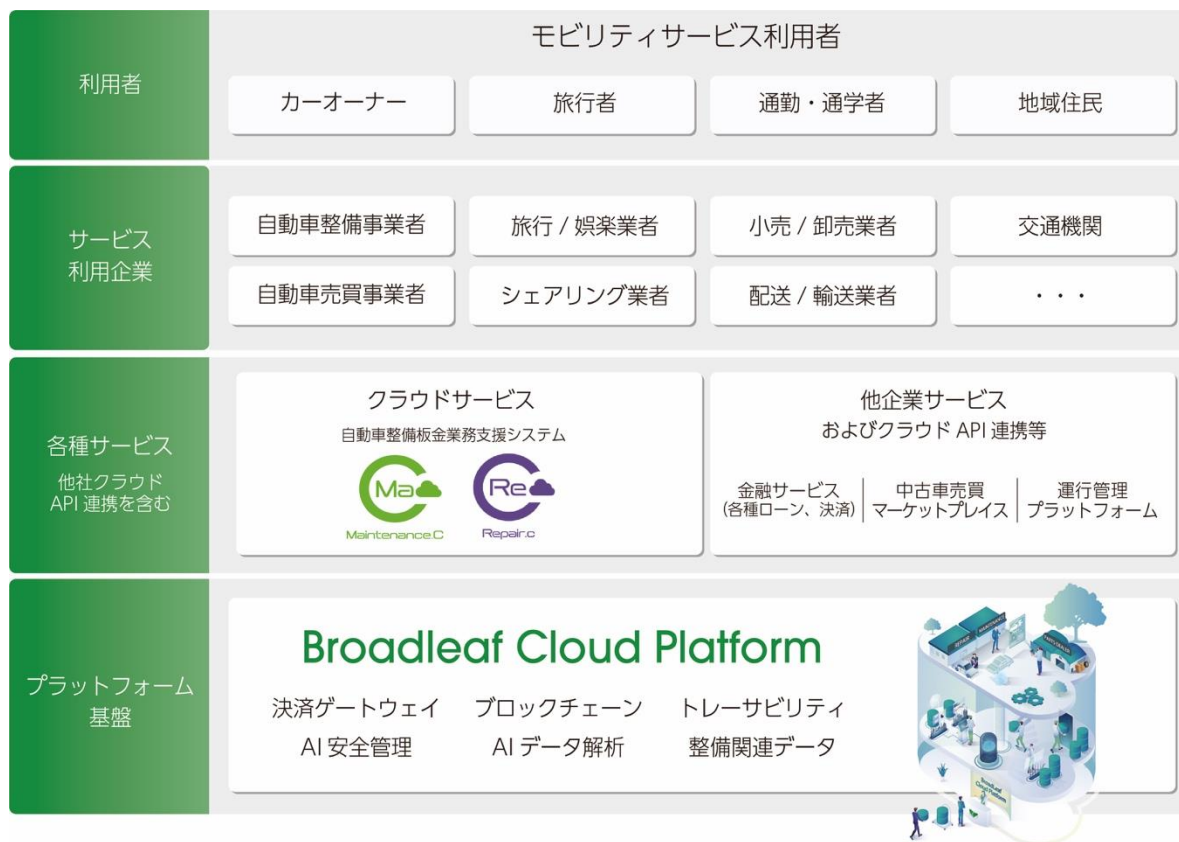
※：ユーザーオーダーエントリーシステム。部品の在庫照会や受発注を行うことができる

<図②：自動車部品の受発注における「紙・電話・FAXを中心としたアナログ業務」を効率化したイメージ>



## <Broadleaf Cloud Platformについて>

IT革新を実現するためのクラウドベースのデジタルビジネスプラットフォーム。大量データの収集・高速検索・分析、業務APIサービスの組み合わせによる短期間でのサービス実装、利用規模に合わせた高いスケーラビリティが特徴です。「Broadleaf Cloud Platform」を起点に、業種・業界を超えた様々なパートナー企業と連携し、自動車関連ビッグデータ・インフラを活かした新たなビジネス、画期的なサービスを提供してまいります。



### 【株式会社ブロードリーフについて】

<https://www.broadleaf.co.jp/>

ブロードリーフは、環境変化をビジネスチャンスへと導くITソリューションを提供しています。モビリティ産業におけるオンリーワンのプラットフォームカンパニーとして、SaaSのほか、マーケットプレイス型サービスを展開しています。また独自開発のクラウド共通基盤は高い拡張性を有することから、ブロードリーフのSaaSは進化を続けます。そしてさまざまなプレイヤーが集うデジタルビジネスプラットフォームへと変貌してまいります。

### 【トヨタモビリティパーツ株式会社について】

<https://toyota-mp.co.jp/>

トヨタモビリティパーツは、トヨタグループの一員として、お客様が安全・安心かつ快適に楽しくクルマを使っていただけるよう、全国33支社を拠点に、修理部品や用品を企画・販売し、お届けしてまいりました。また、関連事業としてジェームスを運営するなど、BtoB・BtoCビジネスを通じてこれまで築き上げてきた「ロジスティクス」と「マーケティング」の強みを着実に磨き上げ、「100年に1度の大変革の時代」を生き抜き、「未来のモビリティ社会」に向けた様々な取組に挑戦します。